

在校生・卒業生・保護者・教職員

# 進路通信 2017/01 後期

北海道釧路湖陵高等学校進路指導部

★特集 医進類型事業の取り組み

本校ではSSHや探求活動など授業以外でいろいろなことを取り組んでいます。今回はその一つ、医進類型事業について述べたいと思います。10年以上も前から指定を受けており、国立大学や私立大学の医学部医学科への進学を最大の目的として取り組んでいます。この事業では毎年メディカル講座やグループ学習、帯広柏葉高校との合同発表会などさまざまなことを行っていますが、今回は8月に実施した札幌医科大学医学部生徒の合同実習（釧路市立病院にて）、9月に本校にて行われた豚の解剖実習について述べていきます。前者は加藤龍先生、後者は渡邊先生によりまとめていただきました。

釧路湖陵高校医進類型事業における「ブタの内臓解剖実習」について（報告）

湖陵高校の医進類型事業として実施している「ブタの内臓解剖実習」について報告します。今年度の「ブタの内臓解剖実習」には、医療分野への進学を志す生徒34名が参加し、これまでで最も多い参加者数となりました。本事業をスタートさせた北海道立教育研究所附属理科教育センターの金本吉泰研究研修主事（獣医師）を講師としてお招きし、9月9日（金）に実施しました。

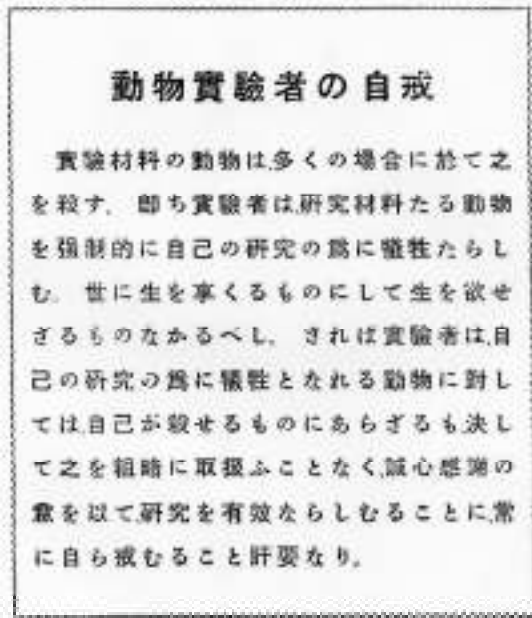
〔事前学習〕  
平成28年8月27日（土）（地学教室）  
講師：北海道立教育研究所附属理科教育センター 金本 吉泰 氏

○解剖実習を行う上での心構え

事前学習は、資料の表紙（右図）となっている「動物実験者の自戒」を全員で読むところから始まりました。当日解剖に用いるブタは、解剖の日の朝まで生きていたことが伝えられ、次のような問いかけがありました。  
「本来は、食用としてその命を全うするはずの存在である家畜を解剖用の教材として使用する場合、それらの命に対してどのように行動すべきか。」

○解剖の具体的なイメージと結紮方法の習得

今回、解剖用の教材となったブタの命に報いるためには、「解剖を通じて得られるものを最大限にする努力をしなければならない」という結論にいたりました。当日は手が汚れるため、資料や教科書で調べることができません。解剖当日までに必要な事前学習の内容と解剖の流れを確認し、手術用の結紮方法の練習を行いました。



「動物実験解剖の指針」（岡村 周諦 著）より



〔解剖実習〕  
平成28年9月9日（金） 13:30～17:00  
講師：北海道立教育研究所附属理科教育センター 金本 吉泰 氏

○臓器の名称の確認

ブタ1個体分の、消化系、呼吸系、循環系・リンパ系、排出系、内分泌系の器官が、1つの袋に入れられた状態で各班に配布されました。事前に学習した内容を思い出しながら、器官名が書かれた紙を実物に貼り付けていき、約20種類の器官の名称をすべて正解してから次の解剖に進みました。内容物を除去するために消化管が切開されていたため、消化管の判別にはなかなか時間がかかりました。

○各器官の解剖

呼吸系、排出系、循環系、消化系の順で、それぞれの器官のはたらきと構造を確認しながら解剖を進めました。



五感をフル活用して解剖に臨みました。講師からは、触覚が大切。動脈と静脈の違いや内分泌腺の組織と脂肪組織の見極めなど、触覚から多くのことがわかる、とのお話がありました。肺に空気を入れて横隔膜のはたらきを確認したり（写真左上）、生理食塩水や墨汁を用いて腎臓の構造と機能を確認しただけではなく、心臓の縫合（写真右下）も体験しました。資料や教科書の模式図と、実物との違いに戸惑いながらも、約4時間休みなして取り組みました。

今回の解剖実習に参加した3年生のうちの10名は、10月1日（土）に実施した理数科1年生を対象とした解剖実習でTA（ティーチングアシスタント）を務めました。自らの経験を交え、わかりやすく、時には考えさせながら解剖の指導を行っていました。教える立場を経験することによって、さらに理解が深まったようです。理数科の生徒は、高校生活の中で解剖実習に参加できるチャンスが最大で3回ありますが、実物から得られる情報量は大変多く、毎回新しい発見があるようです。

ブタの内臓解剖実習は、学習した知識を確認するだけでなく、医療職を目指す上で命について考える機会ともなりました。



## 平成28年度 地域密着型チーム医療実習（報告）

8月8日(月), 9日(火)の2日間、夏休みを利用して、市立釧路総合病院の協力のもと、医療職を目指す本校2年生8名が、札幌医科大生7名と合同で「**地域密着型チーム医療実習**」を行いました。本実習の目的は、医療現場で医療職、医大生の方々と交流することで、現場に必要な資質・能力について考えるきっかけにすることです。初対面の方と積極的に意見を交わし協力する体験を通し、自身の疑問を投げかけるなど、今後にも目的意識を持ち、より充実した高校生活とするためのより良い勉強の機会となりました。

〔1日目〕

### ○研修医、看護師によるプレゼンテーション

市立釧路病院の看護師の方より釧路の医療の現状を、研修医の方よりこれから医療人となる学生に向けての心構えについて語っていただきました。



### ○ドクターヘリ、通信センター、緊急外来見学

道東における緊急医療の現状と、平成21年より釧路で運航を開始したドクターヘリの役割を学びました。人工呼吸器や心電図、電氣的除細動器、吸引器、超音波診断装置などの救急治療用機器や薬品、注射などを搭載し、救急現場等で救急医療を行うことができます。釧路・根室管内は広範囲であり、大きなけがや重病などの緊急事態にドクターヘリは欠かせない存在です。



〔2日目〕

### ☝メディカル・カフェ「高齢者だけではない骨粗しょう症のお話」運営協力

釧路市立病院では、定期的に札幌医科大学との地域医療合同セミナーによる講演会「**メディカル・カフェ@釧路**」を開催しています。1F ホスピタルホールで行われた、札幌医科大学の杉村政樹先生の講演実施に当たり、札幌医大生とペアを組み、受付、司会、誘導など運営の手伝いをさせていただきました。



### ○ディスカッション・発表

午後より、札幌医大生、研修医、看護師、理学療法士、薬剤師、検査技師、放射線技師の皆さまと「**メディカル・カフェの運営について、自分の将来像について**」というテーマでディスカッションを行いました。最後に本校生徒が話し合った内容についてまとめ、発表を行いました。



2日間の実習を通じて、医療現場において実際に働く医療職の方々からしか聞くことのできない貴重なお話をうかがうことができました。特に、道東の医師不足、看護師不足の深刻な現状について知ることができました。生徒たちは医大生、医療職の方々に多くの質問・疑問を投げかけ、またそれに懇切丁寧な対応をいただき、刺激を得ると同時に大きな収穫をいただきました。これからこの収穫を自身の言葉で表現し伝える力が求められます。生徒はそれぞれ医療職を目指す上で、これからやるべきことがはっきりと見え、それぞれの目的を定めることができました。